

農薬の飛散（ドリフト）防止対策を徹底し、安全・安心な農産物を生産しましょう!



農薬の飛散（ドリフト）って何ですか？

散布された農薬が目的作物以外に付着してしまう現象のことです。

散布方法と飛散距離の程度・・・風向きによりこれよりも飛散距離は大きくなります。



農薬の飛散に伴う問題は？

どう対応したら
良いのかな・・・

1. 近隣に栽培されている農産物の汚染

農薬には、その成分ごとに使用できる作物と使用時期が定められており、また農薬の残留基準値も作物ごとに定められています。飛散した農薬が近接作物に対して登録がない場合には、万が一付着した場合、食品衛生法に基づき出荷・販売が禁止される可能性があります。

2. 近隣住民等に対する影響

ほ場が住宅地や公共施設に隣接する場合は、異臭や洗濯物などへの農薬付着といった問題に加え、子どもや高齢者等の化学物質に過敏な方への配慮も求められています。

3. 近隣の公共用水域への混入

飛散や流出した農薬が公共用水に大量に流入すると、飲料水源への影響や、魚介類に被害を及ぼすことがあります。

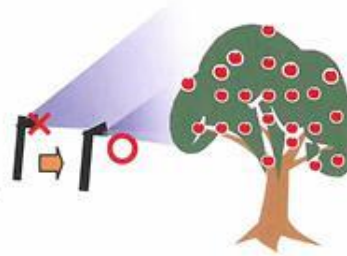
具体的な飛散防止対策

1 風の弱い時に風向に気を付けて散布しましょう！

- ・ 農薬の飛散のもっとも大きな要因は風です。風速3m/秒（木の葉が揺れる、顔に風を感じる等）以上の時は散布しないようにしましょう！
- ・ 竹竿の先にビニール紐をつるし自分の散布目安を作ってみることも一案です。
- ・ 風が弱い時でも風向きに注意しましょう！

2 散布の方向や位置に注意しましょう！

- ・ 出来るだけ作物に近い位置から散布しましょう！
- ・ ほ場の端では内側に向かって散布しましょう！
- ・ スピードスプレーヤーでは散布対象作物が無い方向のノズルは止め、回転時にも外側噴霧は必ず止めましょう！

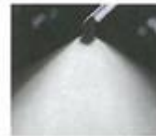


3 ドリフト低減ノズルを活用しましょう！

- ・ ドリフト低減ノズルは、薬液の飛散しやすい微細粒子を大幅に削減します。
- ・ 防除効果は慣行ノズルとほぼ同等ですので、積極的に活用しましょう！

【ドリフト低減ノズルを使用する際の留意事項】

- ① 過繁茂な圃地では薬剤の到達性が劣る可能性があるため、散布ムラが生じないように枝吊りや枝梢管理をする。
- ② 飛散の低減効果を過信しない。



慣行ノズル



ドリフト低減ノズル

4 飛散しにくい剤型を選択しましょう！

- ・ 農薬の飛散は散布粒子が小さいほど起こりやすくなります。
- ・ 特に、粉剤の使用にあたっては、飛散に十分注意しましょう！

飛散大 粉剤 > 液剤 > 粒剤 飛散小

5 散布圧力・散布風量を適正にしましょう！

- ・ 散布圧力を下げることで、薬液の細かすぎる散布粒子の発生を抑えることが出来ます。
- ・ スピードスプレーヤーでは樹種や圃地の条件により必要な送風量とし、大型スピードスプレーヤーであっても、大風量で散布しないようにしましょう！

【送風量の留意事項】

- ① りんごのわい性樹では300~600m³/分、普通樹では600m³/分の送風量であれば概ね良好な防除効果があるが、付着状況を確認して送風量を決める。
- ② ナシ棚栽培の生育初期におけるスピードスプレーヤー散布の送風量は、農薬の飛散軽減のため450m³/分程度が適当と考えられる。また、散布ムラを無くし、十分な薬剤の付着を得るための走行間隔は7~8m以内が適当と考えられる。

6 薬剤の付着し易い樹型づくり、作付け体系を進めましょう！

【果樹の場合】

- ・樹高を低く改良したり、徒長枝切りや枝吊りなどの枝梢管理をしましょう！
- ・異なる樹種や品種の混植を解消しましょう！

【野菜の場合】

- ・同一ほ場内に異なる収穫日の作付けは出来るだけ回避しましょう！
- ・やむを得ず作付けする場合は十分に緩衝帯を設けましょう！

7 防薬ネットや障壁作物を活用しましょう！

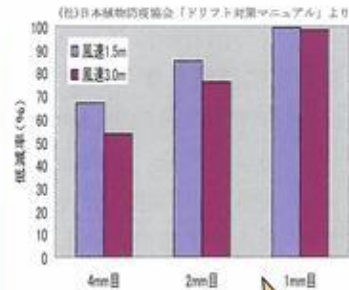
- ・ネットや障壁作物（ソルガム等）を作物の間に設置することも有効な手段です。
- ・近接作物を直接シートで一時的に覆う対策もあります。



①ハシゴ型



②簡易飛散防止施設



- ①、②の他にも各作物及び現場の状況に適した方式がありますので、最寄りの農業改良普及センター、JA等へご相談ください。

ネットの網目が細かいほど低減効果があります。

施設名	地上高(m)	ネット目合(mm)	資材費(円/m)	施工費(円/m)	対象作物
①ハシゴ型	4~5	1.0	12,000~14,000	9,000	果樹(りんご)
②簡易飛散防止施設	1.8	1.0	700	-	野菜
③アンカー型	4~5	1.0	6,500	3,000	果樹・野菜
④巻上げ型	5	1.0	8,000	5,000	果樹
⑤ステイ型	4~5	1.0	4,000~9,000	3,000~9,000	果樹・野菜

※ 資材費、施工費は平成25年3月時点の税込参考単価です。

【障壁作物(ソルガム)を導入する場合の留意事項】

- ①ソルガムは2列以上にまくことで飛散低減効果は向上する。
- ②日照を阻害するので、栽培作物と障壁作物の間隔を大きくとる必要がある。
- ③ソルガムは品種や時期により株元の枯れ上がりが起こり、障壁の効果が低下することもある。

8 隣接するほ場や近隣住民へ配慮しましょう！

- ・農薬を散布する時は、周辺作物への飛散防止対策の他、近隣住民への事前連絡、養魚・養蜂などの周辺環境への配慮も重要です。地域一体となって対策を考えましょう！

農薬散布時に確認しましょう！！



チェック項目



散布を行う前に確認しましょう	
①	使用する農薬のラベルを良く読み、登録条件を守って使用している。
②	無登録農薬、有効期限切れ農薬は使用していない。
③	隣接しているほ場の農作物の種類と収穫時期を把握している。
④	隣接する農家や住民、公共施設等に散布内容を事前に連絡している。
⑤	ドリフト低減ノズルを使用している。
⑥	防薬ネットや障壁作物を設置している。
⑦	飛散しにくい剤型の農薬を使用している。
⑧	薬液の調合前にタンクやホース内に農薬の残液が無いか確認している。
散布中に確認しましょう	
⑨	散布作業は風の弱い時に風向きに気を付けて実施している。
⑩	適切な散布量、散布圧、送風量で散布している。
⑪	出来るだけ作物の近くから対象作物だけに散布している。
⑫	ノズルは適正に配列し、散布対象作物が無い方向のノズルは止めている。
⑬	回転時に外側噴霧は確実に止めている。
散布が終わってから確認しましょう	
⑭	使用後にはタンクやホース等を十分に洗浄している。
⑮	散布器具を洗浄した液は、河川に流入しないよう適正に処理している。
⑯	農薬は鍵を掛けた保管庫で適切に保管している。
⑰	防除日誌に、使用した農薬の散布実績を正確に記帳している。

【この資料に関するお問い合わせ先】

長野県農政部農業技術課（電話：026-235-7222）

又は、病害虫防除所本所（電話：026-248-6471）

〃 中南信担当（電話：0263-53-5642）

最寄りの農業改良普及センターまで



【協力】

（社）長野県植物防疫協会農薬安全使用対策部会

構成：（社）長野県植物防疫協会、全農長野県本部、長野県農業協同組合中央会

長野県農業共済組合連合会、長野県農業卸商業協同組合、長野県農業協同組合

長野県農業会議、長野県

【参考】

「農薬飛散対策技術マニュアル」（平成22年3月）社団法人日本植物防疫協会

「農薬ドリフト対策に関する試験成果情報」（平成19年6月）長野県農業関係試験場

(H25.3)